

昭和五十六年

日本思想史関係研究文献要目

凡 例

一、本要目には、昭和五十六年に発行乃至発表された日本思想史関係の単行本並びに雑誌・紀要論文を収録した。
一、本要目には、日本思想史関係の学術的な研究を選択収録することを原則としたが、一般読者向けのものも適宜収めた。

一、右のように選択した文献を、Ⅰ単行本目録 Ⅱ雑誌・紀要論文目録の二部に分け、次のように配列した。

ⅠⅡ部とも、文献をその内容によって、総雑・古代・中世・近世・近代に分け、さらにそれぞれに属する思想史関係研究文献を、一般・学問道徳教育方面・宗教方面・文芸美術芸能方面・政治社会経済方面・その他の項目順に分類配列した。

単行本は、書名・著書名・発行所名の順、論文は、題名・執筆者名・掲載雑誌紀要巻号数の順に記載した。

一、本要目の作成には、東北大学文学部日本思想史学研究室所属の助手・大学院学生があたった。

一、日本思想史という学問の性格上から、研究文献の選択に迷うことが多く、短時日の間に作成したためもあって、文献の選択や配列に不備な点があるものと考えられる。大方の御教示をお願いする。

I 単行本目録

総 雑

神觀念の比較文化論的研究

東北大学日本文
化研究所編 講 談 社

日本人の宗教意識

湯 浅 泰 雄 名 著 刊 行 会

民間信仰史の研究

高 取 正 男 法 蔵 館

日本人の道德思想

壺 井 秀 生 文 化 総 合 出 版

日本法思想史研究

長 尾 龍 一 創 文 社

東アジアにおける民俗と宗教

元興寺文化財研
究所編 吉 川 弘 文 館

日本的心情論の研究

吉田松陰 北一輝 三島 春 日 佑 芳 ペリかん社

由紀夫

芳賀幸四郎歴史論集

芳 賀 幸 四 郎 思 文 閣 出 版

1 東山文化の研究 上

2 // 下

3 中世禅林の学問および文芸に関する研究

4 中世文化とその基盤

5 近世文化の形成と伝統

古田紹欽著作集

1 日本仏教思想史

2 禅宗史研究

3 正法眼蔵の研究

4 正法眼蔵の研究

古 田 紹 欽 講 談 社

講座 一 揆 青木美智男他編 東大出版会

1 一揆史入門

2 一揆の歴史

3 一揆の構造

4 生活文化思想

5 一揆と国家

古 代

日本神話の新研究

松 前 健 桜 楓 社

日本神話 改訂版

川 副 武 胤 読 売 出 版 社

古事記の研究 改訂増補版

荒 川 紘 海 鳴 社

古代日本人の宇宙観

田 村 圓 澄 編 吉 川 弘 文 館

新羅と日本古代文化

秦 弘 燮 編 吉 川 弘 文 館

日本古代祭祀と鉄

真 弓 常 忠 学 生 社

日本陰陽道史総説

村 山 修 一 塙 書 房

平安時代の歴史と文学

山 中 裕 編 吉 川 弘 文 館

歴史編

平安朝の漢文学

川 口 久 雄 吉 川 弘 文 館

平安仏教の研究

蘭 田 香 融 法 蔵 館

弘法大師の思想とその源流

勝 又 俊 教 山 喜 房 仏 書 林

空海(朝日評伝選)

上 山 春 平 朝 日 新 聞 社

日本芸能史

芸 能 史 研 究 会 編 法 政 大 学 出 版 局

1 原始・古代

谷川健一著作集
第4巻 古代学篇 1

中世

谷川健一 三一書房

日本の中世思想

中世の思想

日本思想史 中

中世日本文化の形成
神話と歴史叙述

中世作家の思想と方法

聖と説話の史的研究

中世の風景 上下

山の民・川の民

日本中世の生活と信仰

中世を生きた人びと

浄土宗の成立と展開

鎌倉浄土教と女性

時宗成立史の研究

教行信証の文献学的研究

教行信証の研究
その成立過程の文献学的
考察

親鸞とその弟子

苦悩の親鸞
その思想と信仰の軌跡

宮井義雄 成甲書房

吉田 究 教育社

守本順一郎著
岩間一雄編 新日本出版社

桜井好朗 東大出版会

藤原正義 風間書房

平林盛得 吉川弘文館

阿部謹也他 中央公論社

井上鋭夫 平凡社

横井清 ミネルヴァ書房

伊藤唯真 吉川弘文館

源 淳子 永田文昌堂

今井雅晴 吉川弘文館

重見一行 法蔵館

石田瑞麿 法蔵館

親鸞の思想と生涯

親鸞をけがす歎異鈔

日蓮とその教団 第4集

乱世を生きる

蓮如の生涯

一向一揆の研究

日本禅宗史論集 下之二

日本の禅語録

2 道元

キリシタン研究 第21輯

民衆運動からみた中世の非人

中世民衆生活史の研究

中世九州の政治と文化

神皇正統記論考

林田茂雄 白石書店

高木 豊他編 平楽寺書店

笠原一男 教育社

北西 弘 春秋社

玉村竹二 思文閣出版

寺田 透 講談社

キリシタン文化
研究会編 吉川弘文館

石尾芳久 三一書房

三浦圭一 思文閣出版

川添昭二 文献出版

我妻建治 吉川弘文館

近世

講座日本近世史

9 近世思想論

近世史の研究

1 信仰と思想の統制

徳川政治思想史研究

日本儒医研究

山鹿素行

本郷 隆盛編 有斐閣

深谷 克己編 有斐閣

伊東 多三郎 吉川弘文館

守本 順一郎 未来社

安西 安周 合同出版

山鹿 光世 原書房

松江藩学芸史の研究

漢学篇

国学発達史

国学の研究

本居宣長の思想と心理

日本の禅語録

16 盤珪

三浦梅園の思想

大原幽学とその周辺(日本史研究叢書)

横井小楠の社会経済思想

新稿雲井龍雄全伝

平賀源内

近代

明治維新の構造(新NHK市民大学叢書 8)

明治の精神

明治維新と神道

近代日本と早稲田の思想群像 1

日本の思想家 近代篇

日本人の終末観

日本キリスト教人物史研究

佐野正巳 明治書院

清原貞雄 国書刊行会

上田賢治 大明堂

松本滋 東大出版会

玉城康四郎 講談社

高橋正和 ぺりかん社

木村礎編 八木書店

山崎益吉 多賀出版

安藤英男 光風社出版

芳賀徹 朝日新聞社

松本三之介 日本放送出版協会

古川哲史 ぺりかん社

阪本健一 同朋社出版

早大社研日本近代思想部会編 早大出版部

菅孝行 大和書房

野村耕三 新教出版社

天皇制下のキリスト教(日本キリスト教史双書)

福沢諭吉伝 1~4

田中正造ノート

北一輝 新装版

近代日本と伊波普猷

内村鑑三と矢内原忠雄

狩野亨吉の思想

民衆蜂起と祭り

秩父事件と伝統文化

自由民権

矩形の銃眼

民衆史の視角

大正デモクラシー期の政治思想

大逆事件と知識人

日本ファシズム論 1 国家と社会

日本のファシズム運動

東洋の論理

西田幾多郎の世界

塚田理 新教出版社

石河幹明 岩波書店

日向康 田畑書店

長谷川義記 紀伊国屋書店

比屋根照夫 三一書房

中村勝己 リポポート

鈴木正 第三文明社

森山軍治郎 筑摩書房

色川大吉 岩波書店

〃 大和書房

栄沢幸二 研文出版

中村文雄 三一書房

日本現代史研究会編 大月書店

栄沢幸二 教育社

峰島旭雄編著 学文社

II 雑誌・紀要論文目録

総 雑

日本における「思想」の語の歴史——その出現から流行までの思想的追跡	梅 沢 伊勢三	東北福祉大学紀要 六一—二	△死▽と△自然▽の時間 ——展開の諸相(一)	釜 我 憲 治	文学思想研究一
日本文化論研究・序説——「主語の論理」と「述語の論理」	岡 崎 公 良	金城学院大学論集 九三	宿と庵——日本古典文学における無常の構造	W. N. Lafont 加 納 孝 代 訳	比較文学研究 三九
「日本人の精神生活」——日本における知識人の生き方について	福 田 恒 存	大倉山論集 一五	来迎文学の意義とその展開	藤 井 智 海	同朋大学論叢 四四・四五
「日本学」考	山 泉 進	明治大学教養論集 一四四	狂言綺語および狂言綺語観について	茶 田 雅 子	大谷女子大國文要 一一
修学期の三浦周行博士の日本史研究	勝 田 勝 年	日本歴史 四〇〇	狂言綺語観の克服	渡 辺 俣 充	駒場東邦研究紀要 一二
比較思想研究の動向	峰 島 旭 雄 他	比較思想研究八	日本の「家」とその信仰——第九回国際人類学民族学会議へ提出の報告	竹 田 聰 州	『日本の家』
米国における最近の日本史研究	金 井 円	知識 二二	法制史上の「家」——中田薫学説の成立	井 ヶ 田 良 治	〃
民俗と宗教——怨霊と日本文化	梅 原 猛 (講演)	基督教文化研究所研究年報一三	湯浅泰雄「日本人の宗教意識」——深層心理学からみた日本思想史試論	竹 内 良 知	朝日ジャーナル 二二三—二八
			藤谷俊雄著「神道信仰と民衆・天皇制」を読んで	中 島 三 千 男	季刊科学と思想 四一
			加藤周一著「日本文学史序説(上・下)」	石 阪 幹 将	文明(東海大) 三二

古 代

古代日本の君主号と中国の君主号―「大王」号・「天皇」号の成立をめぐる

本位田 菊士

史学雑誌 九〇―一二

神武記の意図―初代天皇記の形成をめぐる

山崎 正之

古事記年報二三

古代王権の国土とその継承―「古事記」の構造に關連して

都倉 義孝

早稲田商学 二九二

日本古代の大学における「孝経」―上

八重樫 直比古

ノートルダム清心女子大学紀要 五―一

緯書受容における類書の役割

松島 隆裕

倫理想研究 (筑波大) 六

陰陽道における典拠の考察―いわゆる本書・本条・本文の存在意義―

山下 克明

青山学院大学文学部紀要 二三

律令国家における神仏習合思想の形成

宮城 洋一郎

日本仏教史研究 三

神仏習合の前提

新野 直吉

国史談話会雑誌 二二

日本古代の神靈観―その比較思想的考察―

山下 太郎

比較思想研究 八

古神道の源流に対する一考察―日本と朝鮮の古俗の比較による―

松前 健

国学院雑誌 八二―一一

スサノヲの追放と大祓―八神代Vの論理構造に關して

西条 勉

国文学研究(早稲田大学国文学会) 七五

「タカミムスビ」をめぐる問題

高橋 昊

日本大学精神文化研究所日本大
学教育制度研究
所紀要 一二

百怪呪符

芝田 文雄

『伊場木簡の研究』

古代における馬信仰に関するノート

樋口 州男

〃

早良親王御霊と秋篠寺

須田 春子

古代文化史論攷 二

日本に於ける疫神信仰の生成―蘇民将来と八坂神社の祭神研究

志賀 剛

神道史研究 二九―三

ウケヒ伝承について

和田 勝

日本史論叢 九

殯宮考

田中 久夫

『東アジアにおける民俗と宗教』

殯宮儀礼と新嘗

菊池 威雄

国文学研究七三

八幡神の東大寺大仏造営助成

新川 登龜男

大分県地方史 一〇一

国分寺創建考

田村 円澄

南都仏教 四六

平安時代における仏教と文学

加納 重文

仏教文化研究所研究紀要 一二

平安時代に於ける仏教文化の「節理」への接近

池田 源太

『日本の社会と宗教』

聖徳太子の「勝鬘経」受容について

武田 賢寿

同朋大学論叢 四四・四五

伝教大師最澄の往生思想について―籠山発願文を中心として―

浅田 正博

真宗研究 二五

空海と国家—空海の宗教思想にみる国家観—
愛知県立大学文学部論集—一般教育編—三一

天台神道覚書—耀天記を中心として
国学院雑誌 八二—一一

景戒の儒教意識と大神高市万呂伝の形成—靈異記上巻二十五縁考—
稲田大学国文学会 七五

空也浄土教について—千観との共通性を通じて—
『日本仏教史研究』 三

源信僧都の浄土教
真宗学 六四

融通念仏宗の成立過程—浄土宗との関連において—
『日本の社会と宗教』

仏名会に関する諸問題—十世紀末頃までの動向(下)—
人文学(同志社大) 一三六

『中右記』における“近代”の意味について
曾我良成 古代文化 三三—三五

源経頼の伝記的研究—その公卿学の形成を中心として—
清水 潔 皇学館論叢 一四—一五

律令神祇官制の成立について—その構造・機能を中心として—
西宮秀紀 ヒストリア九三

律令神祇祭祀と神主の成立
高嶋弘志 北大史学 二一

相嘗祭班弊の成立
黒崎輝人 日本思想史研究 一三

官社制度成立期の神職
熊谷保孝 国学院雑誌 八二—一一

奈良時代中期の神祇
熊谷保孝 政治経済史学 一八一

道鏡政権下の神祇
光仁天皇朝の神祇
宮城洋一郎 〃 一八二

律令体制下における民衆教化思想の展開—陸奥国分寺の造営をめぐる—
齋藤博 『日本の社会と宗教』 一〇

聖徳太子の国家理想—近代法の限界と十七条憲法—
齋藤博 仏教経済研究 一〇

古事記および日本書紀における個体尊称(カミ・ミコト)の実態(序説)
菅野雅雄 国学院雑誌 八二—一一

建御雷神—「古事記」成立過程の一試論
菅野雅雄 武蔵野女子大学紀要 一六

八岐大蛇神話成立に関する一考察
三宅和朗 史学(三田史学会)五一—二

国譲り神話の異伝について
三宅和朗 ヒストリア九一

神武東征伝承成立に関する一考察
船津生国男 古代文化 三三—三四

神武天皇大和平定物語小考—吉野入りの条を古事記を主として—
船津生国男 人文自然論叢(大阪学院大) 八

崇神紀を中心とした三輪伝承の構成
松倉文比古 『日本仏教史研究』 三

ヤマトタケル伝承の成立—
松前健 立命館文学 四三五・四三六

万葉びとの死生観
八木章江 文科報 七

持統女帝における吉野
加藤静雄 同朋大学論叢 四四・四五

天武挽歌と陰陽道―天武挽歌論序説	湯川久光	上代文学 四七					
高市皇子尊殯宮挽歌―殯宮の場と匍匐の呪儀をめぐって	尾畑喜一郎	国学院雑誌 八二―一五	源氏物語における無常観の特質―時間意識をめぐる一考察	佐藤勢紀子	季刊日本思想史 一七		
家伝下と王莽伝	三間重敏	万葉 一〇八	源氏物語における否定的精神	横井博	日本大学工学部紀要 B 二二		
吉野詩に於ける自然観―自然認識の方法の一試論	沖光正	日本文学研究 二〇	源氏物語における王統思想―藤壺中宮の位相	古賀侑夫	平安文学研究 六六		
海外渡来の神について―古代末期の説話の神たち	中野猛	日本文学 三〇―一〇	源氏物語のなかの「前代」の意識	柳井滋	国文学 解釈と鑑賞 四六―五		
元興寺古縁起の検討補説	中野忠明	史迹と美術 五一―五	源氏物語のあらわす美意識と倫理意識が意味するもの	野崎守英	〃		
寄雲陳思歌の系譜	岡本雅彦	奈良教育大学国文学部 五	日野三位資業―その伝と文学活動について	川村晃生	国語と国文学 五八―二		
平安朝の「風流」の一先駆者としてみた源融	ベルナル・フランク(講演)	国際日本文学研究会集会議録 四	今昔物語集の「佗」「佗」―意義範疇の変容について	山口康子	長崎大学教育学部人文科学研究報告 三〇		
稲荷神説話の成立と天台・真言密教―説話の成立とその展開をめぐって	三谷栄一	国学院雑誌 八二―一一	「今昔物語集」の悪人往生説話	石橋義秀	大谷学報 六〇―四		
天神縁起と日蔵の伝承	真壁俊信	会報(神道古典研究会) 三	「今鏡」の映し出すもの―その世相と風俗文化	清田倫子	風俗 二〇―三		
天神縁起私考―歓喜天靈験記の再検討	〃	国学院雑誌 八二―一五	伊藤清司著『日本神話と中国神話』	大林太良	史学雑誌 九〇―九		
保胤と「池亭記」	柳井滋	国語と国文学 五八―一二	川副武胤著『日本古代王朝の思想と文化』	入間田宣夫	史学論集(山形大) 一		
中書大王と慶滋保胤―日本往生極楽記の補訂者	平林盛得	説話文学研究 一六	新川登龜男著『上宮聖徳太子伝補闕記の研究』	田中嗣人	日本史研究 二二―三〇		
枕草子における「昔」「今」の意識―六位蔵人と「青色」をめぐって	田畑千恵子	国文学研究(早稲田大学国文学会) 七五	中世における武勇と安穩	黒田俊雄	仏教史学研究 二四―一		

天皇支配権と中世非人支配 中世の親族と「イエ」—中 世女性	松尾剛次	日本歴史三九四	通世における数奇と無常 —西行・長明・兼好への 覚書	目崎徳衛	季刊日本思想史 一七
都市鎌倉における「地獄」 の風景	鈴木国弘	歴史評論三七一	西行雑考—西行歌にみる思 想的一変化について	大場朗	国文学踏査一一
後醍醐天皇の元亨改元・正 中改元について	石井進	『御家人制の研 究』	藤原俊成の美的理念—古来 風躰抄を中心として	岡本あつ子	日本文芸研究 三三—三
「町衆」論再検討の試み— 天文法華一揆をめぐって	佐藤均	立正史学 四八	定家における「時間」	赤羽淑	ノートルダム清 心女子大学紀要 国語・国文学編 五一—
慈円とフライジングのオッ ト—中世歴史思想の比較 の試み	西尾和美	日本史研究 二二九	説話集としての発心集—そ の世界の基盤を考える	高尾稔	仏教文化研究所 研究紀要 一二
儒者・武者及び悪僧—保元 の乱史の一齣	北嶋繁雄	愛知大学文学論 叢 六六	明恵と鴨長明をめぐる人々 —説話享受基盤の一考察	野村卓美	季刊文学・語学 八九
「学びの場と人」風土記 —一四—法然の吉水房	五味文彦	歴史学研究 四八八	草木成仏の思想と謡曲	伊藤博之	中世文学論叢四 鶴見大学紀要 第一部 国語国 文学編 一八
親鸞と教育学—特に教育愛 の考察について	高瀬善夫	月刊教育の森 六一—	謡曲鬘物に摂取された法華 思想	間中富士子	国文学 解釈と 鑑賞 四六—八
無任における「智慧」につ いて	高橋功	富士大学紀要 一四—一	説話と語り物—寺院の説経 をめぐって	福田晃	〃 四六—一一
百練抄と親範記	明良一郎	国学院雑誌 八二—八	絵解きと寺社縁起—無文字 の視界	林雅彦	
「神皇正統記」の著作対象 について	平田俊春	日本歴史四〇二	室町時代物語「釈迦出世本 懐伝記」考—日本的な仏伝 文学の成立	黒部通善	愛知医科大学基 礎科学科紀要八
吉田兼俱の日本書紀研究 —兼俱書写—日本書紀纂 疏—改訂本	我妻建治	国史談話会雑誌 二二	心敬の風雅意識	金子金治郎 (講演)	季刊文学・語学 九〇
中世末期奥三河における遊 行者の教育活動	岡田荘司	国学院雑誌 八二—一一	有心—宗祇におけるその展 開	金子(講演)	語文(大阪大学 文学部)国文学研 究室編) 三八
軍記文学における仏教観	大戸安弘	日本の教育史学 二四		寺島樵一	
	藤井智海	同朋国文 一四			

中世に於ける茶と水―『閑吟集』茶の歌謡について	菅野扶美	芸文研究(慶大)	四二	親鸞聖人の聖徳太子観―聖徳太子奉讃・和讃を中心にして	梅林久高	真宗研究	二二五
本覚思想による神仏一体即自然	三崎義泉	天台学報	二二三	念仏者の神祇観―親鸞における神祇不拝	小田実	国史学研究	七
源氏の神祇信仰についての2・3―とくに源頼朝を中心として	平泉隆房	神道史研究	二九一―	親鸞の思想展開とその背景―前―吉水入室より流罪まで	小島叡成	同朋大学論叢	四四・四五
神社仏寺の修造について―貞永式目の研究	毛利一憲	北見大学論集五		「歎異抄」と唯円―その表現を手がかりとして	五条小枝子	広島女子大学文学部紀要	一六
北条泰時の信仰	沢野初恵	日本仏教史学	一七	「親鸞夢記」の成立	重松明久	『日本の社会と宗教』	
中世初頭南都仏教研究小史―中―	高木豊	日本宗教史研究	四	親鸞の二諦思想について―「弥陀仏ハ自然ノヤウヲシラセンレウナリ」をめぐって	徳永道雄	真宗研究	二五
死態観と浄土教	池見澄隆	日本仏教学会年報	四六	親鸞における善悪の問題	藤永芳純	哲学(広島哲学会)	三三
法然教学の学問的性格に関する研究	峰島旭雄	仏教文化研究	二七	親鸞の不行観について	吉阪好史	真宗研究	二五
明恵研究序説―顕密の行者としての明恵	西山厚	芸林	三〇―二	親鸞聖人における「自然」について―問題の所在	吉田昇代	同朋大学論叢	四四・四五
貞慶の宗教活動	保井秀孝	日本史研究	二二四	親鸞における無常の概念	霊山勝海	日本仏教学会年報	四六
親鸞の生死観	浅井成海	日本仏教学会年報	四六	道元と如浄―7―「如浄禅師語録」到来を中心に	伊東洋一	文経論叢(弘前大)	一六一―
親鸞における神祇不拝の地平	池田顕雄	真宗学	六四	身を万象の中に分つ―正師・道元の性格	加藤健一	日本及日本人	一五六四
親鸞の罪惡思想―「唯除五逆・誹謗正法」の解釈をめぐって	市川浩史	日本思想史研究	一三	道元禅における行と時	茅原正	駒沢社会学研究	一三
親鸞研究―「悪人正機説」の成立と展開	伊東和彦	『日本史攷究』(文献出版)					

近世

江戸時代の社会構造と文化
—歴史社会的アプローチ—

品川清治

竜谷大学論集
四一九

幕藩制封建社会と朱子学

岩城隆利

名古屋学院大学
論集 人文・自
然科学篇
一七一—二

徳川時代の社会と政治思想
の特質

尾藤正英

思想 六八五

徳川前期儒学史の一条件
—(一)—宋学と近世日本社会

渡辺浩

国家学会雑誌
九四—一〇二

教訓的仮名草子を通してみ
た日本儒教の特色

広嶋進

近世文芸研究と
評論 二〇〇

嘉永文化試論

西山松之助

日本常民文化紀
要 七

那波活所と徳川頼宣—紀州
教学の成立をめぐる

柴田純

日本歴史三九六

「益軒学」の特質

小田嶋利江

史冊 二二二

中江藤樹における「神道」
—儒道宗教化の試みとそ
の意義

平田厚志

『日本仏教史研
究』 四

熊沢蕃山の歴史思想

玉懸博之

日本文化研究所
研究報告 一七

熊沢蕃山と幕閣—二—

宮崎道生

政治経済史学
一七六

岡山蕃の宗教政策と熊沢蕃
山

牛尾春夫

歴史手帖九—九

熊沢蕃山の宋明学

川口浩

社会経済史学
四六—五

熊沢蕃山の神道論 続

多田 顕

神道学 一〇九

熊沢蕃山と山鹿素行

宮崎道生

国学院雑誌
八二—八

素行学の特質

佐久間 正

長崎大学教養部
紀要 人文科学
二二—一

儒教と山鹿素行の「中朝事
実」

津下有道

紀要(アジア研)
八

津軽藩の文教と素行の学統
—素行子二九六年忌祭典
記念講演

前野 喜代治

神道学 一〇八

素行史学と白石史学

中山 広司

芸林 三〇—一

大日本史論贊と新井白石

荒川 久壽男

史料(皇学館大)
四二

澹泊と白石—新安手簡年次
考

〃

皇学館大学紀要
一九

白石全集本「新安手簡」を
補ふもの—とくに長谷川本
中の那須国造碑及び松島
碑の記事をめぐる

〃

皇学館論叢
一四—二

正徳の年号と新井白石

〃

芸林 三〇—三

新井白石の聘礼改変と朝鮮
王朝

三宅 英利

北九州大学 学
部紀要B系列
一三

伊藤仁斎の「道」について

豊 沢 一

倫理学年報三〇

伊藤仁斎の生々観をめぐる
て—生々とその自覚

高 島 元 洋

季刊日本思想史
一七

伊藤仁斎と天地生々観

子 安 宣 邦

理想 五七二

仁斎における「権」につい
て

笠 井 清

淑徳大学研究紀
要 一五

「俗と誠」について 伊藤仁齋の場合	黒沢幸昭	山梨大学教育学部研究報告(人文社会科学) 三二	帆足万里の西洋理解と儒教 二一	後藤広子	日本大学精神文化研究所日本大所紀要 一二
伊藤仁齋における思想的転回—仁齋論への覚え書	高橋文博	岡山大学教養部 一七	老荘思想の認識論的射程—莊子と三浦梅園	小川晴久	比較文化研究 二〇
徂徠における「物」について	中村春作	待兼山論叢(大阪大学文学部)(日本学) 一五	近代日本における社会思想への一考察—三浦梅園と安藤昌益を素材に	名越二荒之助	高千穂論叢 五六—二
独庵玄光と荻生徂徠	高橋博巳	文芸研究(日本文芸研究会) 九八	安藤昌益の性格(一)	菅沼紀子	紀要(作新女短大) 六
寛政改革期における松平定信の思想と徂徠学	竹川重男	国史談話会雑誌 二二	頼山陽の歴史思想	石毛忠	防衛大学校紀要 四二
風葉集の完成と若林強斎	近藤啓吾	芸林 三〇—一	近世儒教の歴史思想—頼山陽の史論を中心として	〃	季刊日本思想史 一六
林述斎と八代洲河岸巽園	市川任三	立正大学教養部 一五	大塩平八郎の思想と行動—『洗心洞劄記』の理念とその実践—(一)、(二)	山泉明人	政治経済史学 一七八、一七九
奥平定時編「東聞録」について	吉田公平	紀要(東北大学教養部) 三六	林良斎の「論語」解釈—一、二、三、四—	木南卓一	帝塚山大学論集 三二、三三、三四、三五
前期水戸史学の歴史思想の一側面—栗山潛鋒の歴史思想	玉懸博之	日本思想史研究 一三	江戸陽明学と『孟子』(上)(下)	野口武彦	文学四九—二、三
近世における「自然」と「社会」—海保青陵の場合	森一貫	阪大法学 一六・一一七	湯武放伐の『アポリア』—近世後期儒学の『孟子』論争	〃	文学 四九—七
蟠桃と荀子	柳沢南	倫理思想研究 六	幕末儒学史の視点	宮城公子	日本史研究 二二—二
廣瀬淡窓の敬天説とその教育方法理論	井内嘉美	四天王寺国際仏教大学文学部 一四	横井小楠の政治主体の形成過程—思想の形成と実学党結成前夜を中心に	檜原孝俊	九州史学 七二
近世私塾の就学形態—淡窓日録の分析を中心に	海原徹	京都大学教養部 二七	横井小楠の「経綸の実学」と西洋理解	辻本雅史	光華女子大学研究紀要 一九

香川景樹論—江戸下向時の問題について	寺尾卓之	高野山大学国語国文 七	近世中期大阪の学問と教育—懷徳堂を中心に	山中浩之	ヒストリア 九〇
木下韓村屋門生名籍—木下犀潭塾門人帖について—	木野主計	神道学 一一〇	大阪文化の社会的基盤とその変動—浪華の学問の伝統とその変質を中心として	芳賀登	『畿内地域史論集』
古賀家三代—精里・侗庵・茶溪—の時務策—二—	松下忠	斯文 八四	徳川頼宣の藩教学思想—近世における「学文」の性格	柴田純	史林 六四—三
近世後期の朱子学と海防論—古賀精里・侗庵の場合	梅澤秀夫	近代日本研究三	藩校教育の形成と展開—島津斉彬の政治と教育	沖田行司	人文学 一三六
松崎慊堂覚え書	金原宏行	地方史静岡一〇	儒学の地方的展開—徳島藩の場合	大和武生	地方史研究 三一—六
『慊堂日曆』を中心にしてみた慊堂周辺の人々	鈴木瑞枝	研究紀要(安田学園) 二一	大蔵永常の農業教育観—技術指導と農民教化の乖離をめぐって	三好信浩	広島大学教育学部紀要 第一部 三〇
吉田松陰における「狂」の思想の展開	合田晃治	早稲田政治公法研究 一〇	二宮尊徳の思想—天地生々の営みと人間の営み	小島康敬	季刊日本思想史 一七
吉田松陰の獄中教育とその一考察—吉田松陰の教育像—	吉村忠幸	札幌大学教養部札幌大学女子短期大学紀要一九	平戸藩庶民教育機関「心法舎」について—「心学方記」を中心に	村田勝彦	社会科学討究 二七—一
下田渡海における佐久間象山と吉田松陰	加藤章次	史学論集(駒沢大) 一一	寺子屋から近代学校への明と暗	石川松太郎	知識 二二
谷三山の尊王攘夷思想について	大月明	人文研究(大阪市立大) 三三—一二	教育内容から見た近世北海道の私塾・寺小屋の教育	浅利政俊	松前藩と松前一七
会沢正志斎の「新論」—	長尾久	相模女子大学紀要 四五	近世武家政権論と吉見幸和「国歌八論」論争考—その「国歌論」をめぐって—	阪本是丸	神道宗教一〇四
大内熊耳と水戸藩学	永吉雅夫	文学 四九—五	「国歌論」をめぐって—2—	渡部治	倫理思想研究六
再び水戸藩校弘道館の教育について	鈴木暎一	茨城県史研究 四七	本居宣長の歴史思想	高橋美由紀	季刊日本思想史 一六
中井竹山と中井履軒の経済思想	藤井定義	経済研究(大阪府大) 二七—一			

宣長「雅俗」論の構造
 本居宣長における全体観の
 構図
 本居宣長の「死」の問題
 —宣長の死後観再考—
 「古事記伝」の方法—明和
 八年をめぐる—
 「物のあはれ」の論につい
 て
 倫理的概念としての「もの
 のあはれ」の思想とその限
 界についての覚書
 鈴屋塾における学習者の学
 びの様相—鈴屋の地方社中
 の考察を通して—
 宣長と篤胤における「道」
 の考察—「教学刷新」期に
 おける伝統意識への回帰
 を見る視点を求めて—
 秋田における平田篤胤
 国学者平田篤胤の常人観
 の—
 柳田国男につながるも
 の—
 中島広足と本居内遠—歴史
 舟の成立をめぐる—
 化政天保期における京阪の
 国学の一断面—鐸屋と小柴
 屋について—

山下久夫 立命館文学 四三五・四三六
 前川知賢 中京大学教養論 叢 二二二—二
 安蘇谷正彦 神道宗教一〇五
 板垣俊一 古事記年報二三
 阿部秋生 季刊文学・語学 九〇
 深沢三千男 //
 山中芳和 広島大学教育学 部紀要 第一部 三〇
 阿部茂 東北大学教育学 部研究集録一二
 新野直吉 神道学 一〇八
 芳賀登 レトリカ 二一一
 白石良夫 北九州大学文学 部紀要 二七
 本橋ヒロ子 和洋国文研究 一六・一七

「もののまぎれ」と「もの
 のあはれ」—萩原広道『源
 氏物語評釈』の「惣論」
 をめぐって—
 大国隆正の神道思想
 幕末における「宗教」と「歴
 史」—大国隆正における宗
 教論と歴史論との関連を
 めぐる—
 杉田玄白「野叟独語」ついで
 高野長英と島津斉彬—「兵
 制全書」を中心に
 洋学の歴史思想
 江戸時代の西洋科学受容の
 思惟構造について
 もう一つ蘭学の家、桂川家
 石川丈山年譜稿—上—
 『仁勢物語』とかぶきの精
 神—業平像の変貌—
 井原西鶴の教育観
 上田秋成研究—癡癡談にみ
 られる秋成の人間観—
 上田秋成と復古
 『春波楼筆記』と『徒然草』

野口武彦 書斎の窓 三〇〇
 平田厚志 『日本の社会と 宗教』
 玉懸博之 東北大学文学部 研究年報 三一
 井奥成彦 国史研究会年報 二
 佐藤昌介 東北大学教養部 紀要 三三三
 藤原暹 季刊日本思想史 一六
 川口俊郎 九州産業大学教 養部紀要 一八
 杉本つとむ 日本歴史三九二
 小川武彦 跡見学園女子大 学紀要 一四
 小林幸夫 立命館文学 四三五・四三六
 浮橋康彦 広島大学教育学 部紀要 第二部 三〇
 野口真理子 文科報 七 (跡見短大)
 日野龍夫 文学 四九—六
 松下道夫 日本歴史三九八

馬琴と「杜騙新書」—騙術の系譜を論じて逍遙に及ぶ—上・下—

徳田武 文学 四九—四・五

「八犬伝」と家齊時代—「隠微」再論—上・下—

徳田武 文学 四九—七・八

天保期文人の思想的世界—渡辺政香と「鴨の騒立」の再検討—

岸野俊彦 歴史評論 三七五

近世後期の源氏注釈—雨夜物語と教戒説—

山崎芙紗子 国語国文 五〇—六

近世民衆宗教の説話

宮田登 国文学 解釈と観賞 四六—八

仮名草子とキリシタン思想(一)—「破吉利支丹」と「鬼利至端破却論伝」の場合—

阿部一彦 愛知淑徳短期大 学研究紀要 二〇

キリスト教の盛衰と伊勢御師の活動—肥前国大村の場合—

久田松和則 皇学館論叢 一四—四

長崎における排キリシタンの伝承について

越中哲也 キリシタン研究 二—一

神道とキリシタン宗との交渉—神道の神観念を通じて—上・中—

三橋健 神道宗教 一〇三・一〇四

『二人びくに』の仏教思想 盤珪における「不生」の思想

武重治夫 字部国文研究 一二—二

松前仏教の近世的展開

佐々木馨 日本文化研究所 研究報告 一七 松前藩と松前一八

加賀藩祈禱所と地域民衆—俱利伽羅長楽寺について

杉本晴介 北陸史学 三〇

近世遊行上人の四国巡行

長谷川匡俊 地方史研究 三一—五

江戸時代後半における二人の旅行者の地理思想—橋南谿と古川古松軒の旅行記を中心—

大嶽幸彦 論集(神戸大・教養) 二八

幕末親仏派について

高輪真澄 国史研究会年報 二

民衆宗教の女人救済論—媚姪喜之の場合—

浅野美和子 歴史評論 三七—一

近世における身分制思想と貴賤淨穢観

衣笠安喜 部落問題研究 六八

近世武家諫言考

高山竜博 研究紀要(仏教大・院) 九

近世の法と国制研究序説(五)—紀州を素材として—

水林彪 国家学会雑誌 九四—九・一〇

惣百姓一揆の思想—但馬国朝来郡元文一揆の分析を通じて—

今宿純男 『畿内地域史論集』

寛政期の政治思想

大和武生 『阿波・歴史と民衆』(南海ブックス)

江戸時代の庶民の批判精神

新田二郎 富山県史だより 五

『農民鑑』の真宗的農民の倫理と支配思想

大桑斉 『日本の社会と宗教』

二宮尊徳の無利息金融創設とその運用の精神—報徳仕法における経済と道德の調和—

内山稔 政経研究(日本大学法学会) 一八一—二

幕末村方指導者の法意識
(三) 村方出入と名主越
訴一件
基田 佳寿子
年報(明大刑事
博物館) 一二

井伊大老論 | 四 | 反井伊派
の大老批判
山口 宗之
歴史学・地理学
年報 五

幕末における攘夷論の諸相
| 二 |
内藤 俊彦
法政理論(新潟
大学法学会編)
一三 | 三

院庄の道統 | 作州津山にお
ける尊王思想のひとつの
流れ
福田 篤二
神道史研究
二九 | 一

維新の変革と幕臣の系譜・
改革派勢力を中心に | 国家
形成と忠誠の転移相克
| 五 |
菊地 久
北大法学論集
三二 | 一

芳賀登編『豪農古橋家の研
究』
門前 博之
駿台史学 五三

小林秀雄『本居宣長』
榎川 一郎
歴史学研究四九

小笠原春夫著『神道信仰の
系譜』
安蘇谷 正彦
宗教研究
五四 | 四

洋学勃興の「思想的前提」
について | 佐藤昌介氏の
新著『洋学史の研究』に
関連して
沼田 次郎
日本歴史四〇三

白木豊著『尾藤二洲伝』
揖斐 高
国語と国文学
五八 | 四

佐野正巳著『松江藩学芸史
の研究』
藤並 省自
立正史学 五〇

南和男著『江戸っ子の世界』
益井 邦夫
国学院雑誌
八一 | 二二

関民子著『江戸期の女性た
ち』
桜井 由幾
歴史評論三七一

近代

日本近代化論の再考 | ハー
バート・ノーマンを中心
として
中泉 啓
日本大学人文科
学研究所研究紀
要 二五

日本人の見た西洋・西洋人
の見た日本 | 久米邦武とオ
ールコック
太田 昭子
比較文学研究
四〇

近代天皇制の形成過程 | 五
下山 三郎
東京経大会誌
一〇〇

福沢諭吉の国家認識
鈴木 和明
早稲田政治公法
研究 一〇〇

近代啓蒙思想家福沢諭吉の
仏教観
疋田 精俊
智山学報 三〇

文明論における「始造」と
「独立」 | 「文明論之概略」
とその前後 | 一 |
松沢 弘陽
北大法学論集
三一 | 三・四

福沢諭吉の朝鮮論
青木 功一
横浜市立大学論
叢 人文科学系
列 三二 | 一

東洋盟主論の隘路と「脱亜」
論の理路 | 西欧列強と清朝
中国のあいだの福沢諭吉
細野 浩二
社会科学討究
△早大・社研
二七 | 一

西周と経済学
杉山 忠平
思想 六七九

百一新論の成立事情
蓮沼 啓介
神戸法学雑誌
三一 | 一

明治二、三年の西周
蓮沼 啓介
神戸法学雑誌
三一 | 二

鷄肋集の成立事情 | 啓学者
西周研究序説
蓮沼 啓介
神戸法学雑誌
三一 | 三

初期中村敬宇の対外認識

荻原 隆

早稲田政治公法研究 一〇

加藤弘之と仏教—その因果
応報説批判を中心に

金子 洋子

『日本仏教史研究』 四

森有礼の国家主義の構造と
その「学政」

松村 憲一

フィロソフィア 六九

明治十年の小野梓—広瀬進
一関係の文書を通じて

福島 正夫

早稲田大学史紀 一四

一八八一年の政変をめぐる
小野梓の軌跡

大日方 純夫

早稲田大学史紀 一四

中江兆民と明治啓蒙思想

米原 謙

下関市立大学論集 二五—一

「理学者(フィロゾフ)」
兆民—その思想的考察

宮村 治雄

東京都立大学法学会雑誌 二二—二

「立法者」中江兆民—元老
院国憲案編纂過程におけ
る「豆喰ひ書記官」とポ
アソナードの角逐

井田 進也

思想 六八六

中江兆民とそのアジア認識
—東洋学館・義勇軍結成
運動との関連で

小松 裕

歴史評論三七九

中江兆民 一八八六—一八
九一

後藤 孝夫

思想 六八六

「東洋のルソー」考

米原 謙

阪大法学二一六
・一一七

櫻鳴社研究—二—(付、民権
派ジャーナリスト年表)

江井 秀雄

和光大学人文学部紀要 一六

天野為之とJ、S、ミル
—

早坂 忠

外国語科研究紀要(東京大学教育学部外国語科編) 二九—三

国家の制度化と法制官僚の
政策嚮導—明治前期におけ
る法による支配と井上毅

山室 信一

社会科学研究所
△東大・社研
三三—二

井上毅の読書事歴

木野 主計

国史学 一一五

教育と明治国家—井上毅の
思想構造と教育政策を中
心に

藤原 保利

日本大学人文科
学研究所研究紀
要 二五

愛国思想の歴史的 성격と因
縁—その思想形成の秘奥に
あるもの

石田 一良

日本及日本人
一五六二

三宅雪嶺と井上円了—その
「国粹」の論理と民衆的視
点の所在

堀口 節子

『日本宗教史研
究』 四

陸羯南の外交論—明治三一
年—三三年(二)

山口 一之

駒沢史学 二八

明治期における江戸洋学観
の展開

藤原 暹

Artes Liberales
二九

元良勇次郎における自然と
人間—明治における科学的
精神の軌跡

渡辺 和靖

愛知教育大学研
究報告 人文科
学 三〇

大阪時代の菅野スガ—宇田
川文海の思想的影響につ
いて

大谷 渡

日本史研究
二二二

雲照「十善戒」における国
家主義の性格

柏原 祐泉

『日本の社会と
宗教』

留岡幸助の社会道徳論—上
—「斯民」における留岡
幸助を中心に

村山 幸輝

四国学院大学論
集 四九

「六合雜誌」における村井
知至

辻野 功

同志社法学
三三一—一

堺利彦と山川均

川口 武彦

唯物史観 二二

山川均の「方向転換論」 —アウトサイダーの意見 —初期上杉慎吉と市村光恵に おける国家と天皇—二、三	Stefano Bellieni	世界 四二六	西田幾多郎における東洋的 なるものと西洋的なるもの 対話である—西田幾多郎晩 年の実在観	高橋 亘	カトリック研究 四〇〇
柳田国男の神道・国学観と 新国学論の醸成	内野 吾郎	国学院大学日本 文化研究所紀要 四八	西田哲学と森信三の全一学 —北森神学と西田・田辺哲学 —神の痛みと無の論理	小野寺 功	皇学館大学紀要 一九
吉野作造への一視角—5— 7—	野村 乙二郎	政治経済史学 一七六・一八〇 ・一八七	近代日本における実存主義 の系譜—田辺元	小野寺 功	清泉女子大学紀 要 二九
大正デモクラシー期の図書 館運動	是枝 英子	歴史評論三七八	和辻哲郎論覚え書—「日本 倫理思想史」における仏 教のとりあげ方について	河波 昌	比較思想研究八 要 二八
兵浅次郎と北一輝における 進化論と教育思想	福井 直秀	ばいでいあ 五	和辻哲郎とフィロロギ— 和辻哲郎と戦後日本	今井 淳	武蔵大学人文 学雑誌 二二—二
北一輝と美濃部達吉の国家 思想—天皇機関説事件の思 想的解明のために—	小山 常美	季刊日本思想史 一五	昭和思想史における倫理と 宗教—1—序説、務台・三 木・戸坂をめぐる	田ノ倉 亮爾	大倉山論集一五
北一輝における進化論の受 容と変容—下—	岡本 幸治	大阪府立大学紀 要 人文・社会 科学 二九	昭和思想史における倫理と 宗教—2—戸坂潤と自由主 義批判	粕谷 一希	諸君 一三—二
橋田邦彦の科学哲学—2、 3—	吉仲 正和	科学史研究 一三七、一三九	三木清と戸坂潤—昭和十年 前後、一断面	峰島 旭雄	早稲田商学 二九二
西田税研究の現状	堀 真清	西南学院大学法 学論集一三一—四	土田杏村の文明批評につい て	阿毛 久芳	日本文学 三〇—一二
日本フアンズムと知識人	マイルス・フレ ッチャー	『日本フアンズ ム』	学制の実施と「身分学校」 のめばえ—「身分学校」形 成史序章	藤本 正久	比較思想研究八
西田哲学における具体的— 般者—ヘーゲルの具体的— 遍と関連して	高坂 史朗	人文論究(関西 学院大学人文 学) 三一—二		安達 五男	武庫川女子大 学紀要 国語・国 文学編 二九

「教育学大旨」および「教育勅語」に見る儒家思想の受容形態

わが国初等教育における「養生法」教科の導入とその廃止に関する研究

近代日本における農業教育から農民教育への転回過程―伝統と近代化の相剋―

明治期における商業教育発生の研究―福沢門下生の商業学校創設を中心に―

明治三十年前後における仏教教育―その改革と問題点―

「明治女学校」に関する覚え書―明治期ロマン主義とキリスト教

わが国における女子教育の成立と教育「観」

高等女学校教育と良妻賢母観

良妻賢母主義教育に関する研究―2―文相・菊地大麓と良妻賢母主義

上田自由大学の理念と現実―タカクラ・テルの教育的営為

洪祖顯

水松野本忠充
文子

片山清一

須永進

山本哲生

藤田美実

光信隆夫

小山静子

横田貞子
額田淑子

米山光儀

日本大学精神文化研究所日本大
学教育制度研究
所紀要 一二

日本体育大学紀
要 一〇

日本大学精神文化研究所日本大
学教育制度研究
所紀要 一二

関東教育学会紀
要 八

日本大学精神文化研究所日本大
学教育制度研究
所紀要 一二

立正大学文学部
論叢 七一

京都府立大学学
術報告 人文 三三

京都大学教育学
部紀要 二七

美作女子大学・
美作女子大学短
期大学部紀要 二六

慶応義塾大学大
学院社会学研究
所紀要 二一

心理学・社会学
・教育 二一

小原国芳の道德教育―一考
察

昭和初期「郷土教育」の一
考察―その盛行の基底とイ
デオロギー的特質

一九二〇年代における公民
教育の一研究―「公民科」
の基本構造について

戦前教科書にみる「自由民
権運動」の後退・消滅

占領文書からみた戦後教育
改革―1―敗戦直後の教育
勅語批判

戦後日本におけるマルクス
主義人格理論の到達点と課
題

近代天皇制の変容―近代詔
勅考

近代天皇制の支配原理に関
する一試論―部落差別と関
連して

近代皇族の権威集団化過程
―1―近代宮家の編成
過程

祭政一致をめぐる左院の
「政教」論争

明治神祇官制の成立と国家
祭祀の再編―上―

坪田庸子

木村勲

新田和幸

山住正巳

鈴木英一

池谷寿夫

須崎慎一

鈴木正幸

高久嶺之介

阪本是丸

羽賀祥二

弘前学院大学・
弘前学院短期大
学紀要 一七

地域史研究
一一―一

北海道教育大学
紀要、第一部
C、教育学編
三二―一

文化評論 二四四

教育 三一―四

高知大学学術研
究報告 社会科
学 三〇

一橋論叢
八五―二

部落問題研究
六八

社会科学(同志
社大学) 二七

国学院雑誌
八二―一〇

人文学報(京都
大学人文科学研
究所) 四九

明治宗教行政史の一考察	阪本是丸	国学院雑誌 八二—六	自由民権思想の試金石—琉球論の課題	比屋根照夫	世界 四三三
幕末期における岩倉具視の政治意識—政治意見書の検討	板垣哲夫	日本歴史三九二	泡鳴の「神道」受容—その自然観と国家観—	永吉雅夫	日本文学 三〇—九
「明治六年政変」と大久保利通の政治的意図—毛利敏彦説にたいする疑問	家近良樹	日本史研究 二二三—二	近代日本と伊波普猷	比屋根照夫	琉大法学 二八
大久保利通「妄識」の思想的考察	時野谷滋	大倉山論集一五	帯刀貞代小論—労働婦人運動の立場からの女性史研究の開拓者	小池和子	歴史評論三七—一
明治維新後の人権思想—「憲政上からみる天賦人權論」	小森幸一	日本大学理工学部一般教育教室 彙報 二八	初期社会主義運動家小田頼造の研究—中—	長江弘晃	日本大学精神文化研究所日本大 学教育制度研究 所紀要 一二
伊藤博文と自由民権運動	高橋正則	政治学論集一四	初期社会主義の一断面—千葉県北総平民倶楽部の活動と思想	林彰	民衆史研究二—
自由民権運動研究の一視点—「民権と国権の問題を中心に」	猪飼隆明	歴史評論三七九	コミンテルンと日本—4完—極東諸民族大会をめぐって	川端正久	竜谷法学 一四—三
自由民権運動史上における児島稔	寺崎修	政治学論集一四	創立前の「日本共産党」—日本マルクス主義運動の暁	川端正久	思想 六八九
地域教材による自由民権学習	鈴木義治	歴史評論三七九	日本における大衆社会と平準化—一九二〇年代以降の思想集団の変遷から	筒井清忠	思想 六八八
末広鉄腸における日本とアジア—「明治期」歴史意識の一類型	武田清子	アジア文化研究 (国際基督教大学学報) 三一—A—三	村落社会主義論の周辺—吉田磯・白島健と千葉社会主義運動	田村貞雄	研究報告(静大 教養) 一七一—
井上の憲法私案について	大石真	国学院法学 一九—二	牟婁新報における思想的背景	山本和美	神女大史学 一
伊藤博文と井上毅の政党観—下—	高橋正則	政治学論集一三	原敬と増師(二)—「原敬日記」にみる原の論理と行動	中島昭三	国学院法学 一九—三
自由民権思想と琉球問題	比屋根照夫	世界 四二八			

農村社会運動としての修養
団運動の論理と実態——大正
後期の愛知県碧海郡の事
例

岡田洋司

地方史研究
三一—四

近代における浄土宗教団の
研究——日清戦争従軍慰問使
覚書

野田秀雄

日本私学教育研
究所紀要
一七一—二

権藤成卿と章炳麟の交遊

滝沢誠

日本歴史三九九

日本の近代化と浄土真宗

小笠原真

社会学評論
三二—二

近代民衆の天皇観成立過程
覚え書

牧野尚信

『秋田地方史研
究』
(みしま書房)

江渡狄嶺と道元禪師——只管
百姓と只管打坐(含 附
録・農乘囑文他)

斎藤知正

仏教経済研究
一〇

所謂皇道派の対外政策

山村文人

軍事史学
一七一—

日本ファシズム下の仏教

向井啓二

『日本仏教史研
究』
四

齋藤隆夫の反軍演説とその
反響

河原宏

社会科学討究
(早稲田大学大
隈記念社会科学
研究所)
二七一—

久松真一における宗教性に
ついて——2——

沼田隆

愛知教育大学研
究報告 人文科
学
三〇

歴史・理論・政策——三木清
の所説を中心として

大庭治夫

国士館大学政経
論叢三七・三八

天皇制国家形成下のキリス
ト者の一断面——巖本善治の
人間観をめぐって

片野真佐子

日本史研究
二二—〇

近代天皇制下における政教
論の構造——新仏教運動の
場合——

赤松徹真

『日本仏教史研
究』
四

海老名弾正の思想と朝鮮伝
道論

池明観

東京女子大学附
属比較文化研究
所紀要 四二

「新仏教」運動と教団改革

福島寛隆

『日本の社会と
宗教』(同朋舎)

明治キリスト教の歴史思想
——植村・海老名——キリス
ト論争」を中心に

田代和久

季刊日本思想史
一六

仏教公認運動の論理と状況

赤松徹真

〃

内村鑑三と近代日本

小原信

青山学院大学一
般教育部会論集
二二—二

明治以後の親鸞像の再検討
——森三樹三郎氏の自然法
爾解釈への批判を媒介と
して

木全徳雄

論集 六
(筑波大哲学思
想学系)

内村鑑三における時間と歴
史

〃

青山学院大学文
学部紀要 二二三

沖繩における真宗展開の諸
問題

知名定寛

『日本の社会と
宗教』

内村鑑三の自己形成と教育
観の構造

木戸三子

教育学研究
四八一—三

日本人キリスト者における
自我意識について
—高倉徳太郎
竹林孝子
お茶の水女子大
学人文科学紀要
三四

Bushido考
—新渡戸稲造の場合
西義之
比較文化研究
二〇

奄美におけるカトリック教
排撃運動—大島高等女学校
廃校問題を中心に
山下文武
琉大史学 一二

プロテスタントキリスト教
と部落解放運動—創立期キ
リスト者部落対策協議会
を中心
萩原俊彦
部落問題研究
六九

明治初期プロテスタントの
神戸伝道とD・C・グリ
ン
茂美樹
キリスト教社会
問題研究 二九

日本戦闘的無神論者同盟の
活動
田中真人
社会科学 二七
(同志社大)

近代日本文学とキリスト教
滝沢武人
桃山学院大学キ
リスト教論集 一七

一葉文学に見る近代思想
西尾能仁
大東文化大学紀
要(人文科学) 一九

独歩とキリスト教・試論
—2—独歩のキリスト教
観について
高橋直哉
山口国文 四

与謝野晶子のデモクラシー
論(上)
大木基子
社会科学論集 四一

透谷におけるドイツ文学評
論の受容について—人生相
渉論争への一視界
出原隆俊
国語国文 五〇—五

明治国家を生きた森鷗外
長谷川 泉
知識 二二二

有島武郎—自由主義神学と
の関係
増子 正一
キリスト教学 二二三

大正期のトルストイ受容
—上—ドストエフスキイ
との併称をめぐって
柳 富子
文学 四九—四

転向と探偵小説—平林初之
輔没後五十年によせて
池田浩士
思想 六八九

一九三〇年代の文芸統制
—松本学と文芸懇話会
海野福寿
駿台史学 五二

昭和文学の展望—3—日本
浪漫派の古典回帰序説
小沢保博
琉球大学教育学
部紀要 第一部 二五—一

三島由紀夫と昭和史
山本舜勝
知識 二二二

ひろた・まさき『文明開化
と民衆意識』
広瀬玲子
歴史学研究 四九二

杉原四郎「日本経済思想史
論集」
山崎 怜
甲南経済学論集 二一—四

安田常雄著「日本ファシズ
ムと民衆運動」
須崎慎一
日本史研究 二二四

安田常雄「日本ファシズム
と民衆運動—長野県農村に
おける歴史の実態を通し
て」
林 有一
歴史学研究 四八九

安田常雄「日本ファシズム
と民衆運動」
西田美昭
社会経済史学 四七—二

大槻弘著「越前自由民権運動の研究」

後藤 靖

社会経済史学
四七―三

明治期のキリスト教（成果と展望・総論）―大浜徹也著

「明治キリスト教会史の研究」

鈴木範久著「明治宗教思潮の研究」

同社大学人文科学研究所編「松本平におけるキリスト教」

竹中正夫著「倉敷の文化とキリスト教」

太田愛人著「明治キリスト教の流域」

斎藤博『民衆精神の原像』

大浜徹也著「明治キリスト教会史の研究」

色川大吉著「自由民権」

河原宏著『昭和政治思想史研究』

わび攷―王朝時代における「わび」の萌芽をめぐる

伊勢の神をめぐる病と信仰―室町中期の京都を舞台に

「秘宮」成立試論―儒教における「独」の観念との関連について

寺小屋教科書における親子道徳の内容について

山鹿素行の学校論に関する考察―二―政治と教育の関連について

本居宣長の情念論

富士谷御杖の思想―ある国学思想

本多利明と大原左金吾

林述斎と谷中村莊

日本の近代化と国民教育

明治前半期の科学教育に関する研究―T・H・ハックスレーの科学教育思想の受容を中心として

相川 宏

日本大学芸術学部紀要 一〇

瀬田 勝哉

武蔵大学人文学会雑誌 一一―一二

山田 謙次

近代文学試論 一九

尾形 利雄

上智大学教育學論集 一五

松野 憲二

明星大学研究紀要 人文学部 一六

神沢 惣一郎

早稲田商学 二八四

黒沼 幸昭

山梨大学教育學部研究報告 第一分冊 人文社会科学系 三一

長尾 久

相模女子大学紀要 四四

市川 任三

立正大学教養部紀要 一四

大坪 嘉昭

北海道教育大学紀要 第一部 C 教育科学編 三〇―二

末藤 美津子

東京大学教育学部紀要 二〇

補 遺

昭和五十五年

比較思想への序章

三 枝 充 憲

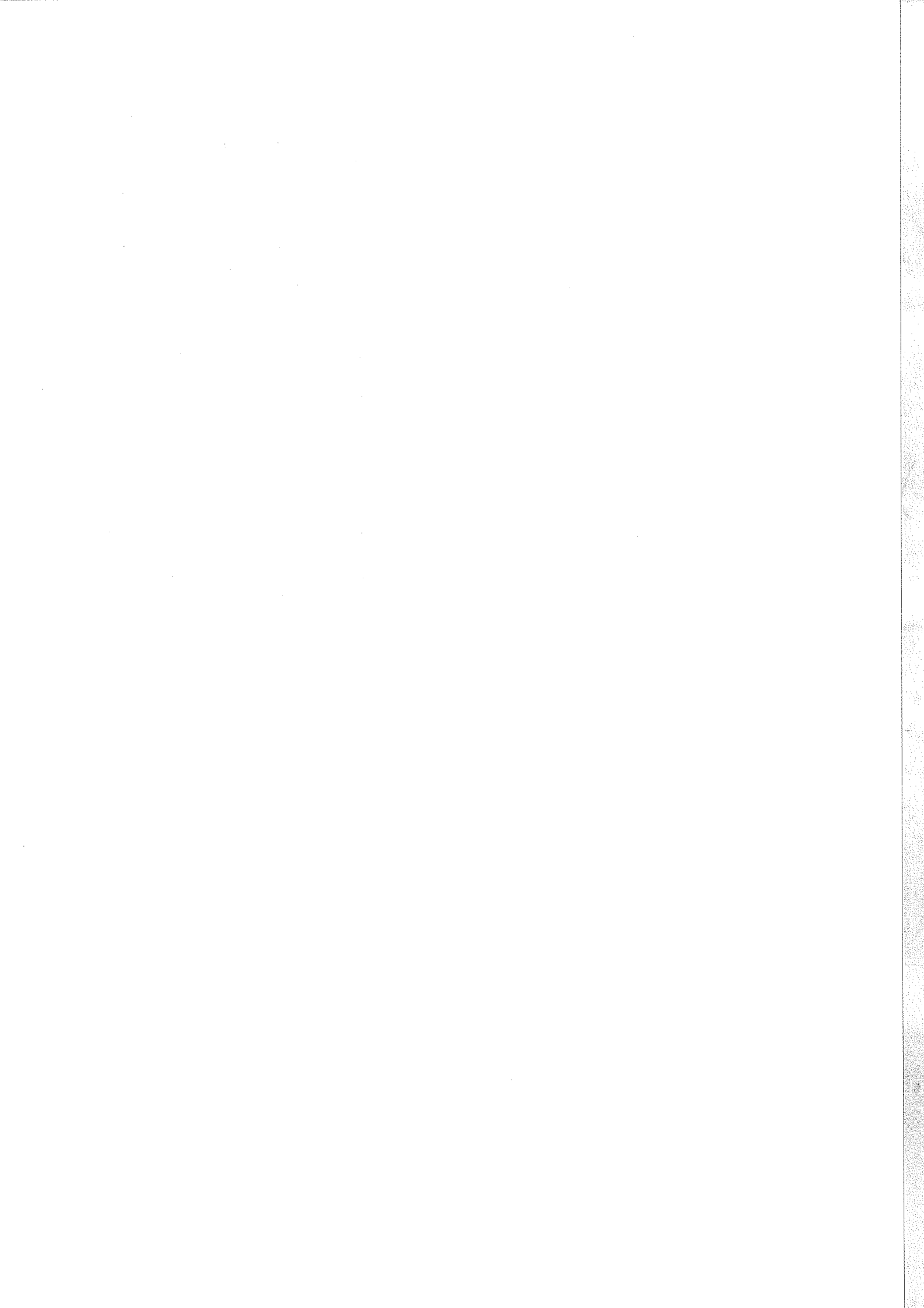
筑波大学哲学・思想学系論集六

奈良時代のカモ朝臣―奈良朝後期の意識に関する断章

新 川 登 亀 男

日本女子大学紀要 文学部 三〇

学農社農学校の教育	三好信浩	広島大学教育学部紀要 第一部 二九
植村正久における罪観	関岡一成	関西外国語大学研究論集 三二二
内村鑑三における科学と宗教	小山宙丸	比較思想研究七
内村鑑三の社会評論「『万朝報』「客員」時代を中心に	小原信	青山学院大学一般教育部会論集 二一
西田哲学とフッサール現象学	峰島旭雄	哲学年誌 四



発刊の辞

東北大学法文学部の開設とともに、故村岡典嗣氏を初代の主任教授として日本思想史学専攻が設立せられたのは大正十二年のことである。

昭和二十一年春、村岡氏が定年退官せられて後、後任者の得難きままに九年余を経て、昭和三十年に故竹岡勝也氏が就任せられた。しかし竹岡氏も在職二年にして定年退官せられ、一年を経て昭和三十三年に私が両教授の芳躰をけがすことになった。

本専攻の学部（第三・四年）は「日本思想史学専攻」として文学部史学科に属し、大学院（修士・博士課程）は「国文学国語学日本思想史学専攻」として文学研究科に属している。日本思想史学の独立の講座を基礎として、日本史（国史）専攻、乃至は国文学専攻または倫理学専攻とは別に、独立した「日本思想史学専攻」が設けられているのは、東北大学のみである。

以上の如き本専攻の歴史と現状に鑑み、関係者相い諮って、専攻専属の機関誌として、本誌を刊行し、その研究・教育の状況を学の内外に紹介することにした。大方の御援助を仰ぐ次第である。

昭和四十二年三月

石田一良

日本思想史研究 第十六号

昭和五十九年三月十五日 印刷
昭和五十九年三月二十五日 発行

編集代表者 玉 懸 博 之

仙台市日の出町二丁目四ノ二

印刷所 (株) 仙台共同印刷

仙台市川内

発行所 東北大学文学部

日本思想史学研究室

